ドキュメンタリー映画「フクシマ後の世界」の上映と意見交換、交流会

旭川で経験を共有する時間

「旭川で経験を共有する時間」は、ドキュメンタリー映画「フクシマ後の世界（監督　渡辺謙一氏)」の上映と、2011 年の震災、原発事故により避難・移住し、旭川周辺に暮らしているみなさまの経験を地域の方々と共有することで、改めて災害とその影響を知り、学びあう時間です。

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から、来年で９年を迎えます。毎年のように日本各地で大きな災害がおき、被害を受け修繕の終わらない家に暮らしつづける、仮暮らしを余儀なくされている方々が増えています。

旭川周辺に暮らしている方は、災害に関して安全な土地、という意識が強いと聞きます。
震災後、縁がありこの地に来られた方もいれば、災害が少なく、自然豊かで原発からも離れ安全に暮らせる場所として、旭川周辺に避難・移住された方もおられると思います。
突然、災害に見舞われた時の不安と混乱、そこから避難・移住し、新たな日常を築いて行く過程は、家族やひとりひとりの迷いと選択の連続だったのではないでしょうか。

「今まで何十年も暮らしてきたが、こんな災害ははじめて」
災害に遭われた方がインタビューなどでそう答える姿を、私たちは何度となくみてきましたが、その後、本当は何を必要とし、何に困り、そこからどのように日常を築いてきたのか。その過程に思いを巡らせ、共有できる機会は少ないと思います。
みなさまのご参加、お待ちしております。

2019 年 11 月 30 日 (土)
13 時 00 分 から 16 時 00 分

「旭川で経験を共有する時間」

内　　容	ドキュメンタリー映画上映と意見交換、交流会
上映作品	「フクシマ後の世界」　監督　渡辺謙一　(2012 年 77 分)

東日本大震災そしてフクシマに、私は見た。20 世紀のエネルギー革命のシンボルと経済成長の源が崩壊するのを。フクシマは自然災害と人間の営みによる環境破壊を体現し、文明の様々な問題を映し出す。このドキュメントは破局の観念を、原子力文明を、人間と国家の責任を問い直し、被災者の証言、政治学者、哲学者や作家の言葉を一幅の絵巻のように間断なく描く。「フクシマ後の世界」とは、文明の危機を前にした私たちの "自覚のプロセス" でもある。

〈監督プロフィール〉1975 年、岩波映画入社。1997 年、パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。『桜前線』で 2006 年グルノーブル国際環境映画祭芸術作品賞受賞。近年は『天皇と軍隊』(2009)のほか、『ヒロシマの黒い太陽』(2011)、『フクシマ後の世界』(2012)、『核の大地・プルトニウムの話』(2015) など、欧州において遠い存在であるヒロシマやフクシマの共通理解を深める作品制作に取り組んでいる。
〈制作〉カミプロダクション、アルテ・フランス
〈配給〉アルテ・ディストリビューション
〈参加映画祭〉ローザンヌ緑の映画祭、ブルジュ映画祭、グロワ島国際映像祭キミテテ賞受賞、グアドゥループ国際映像祭、リエージュ国際保健映像祭、アーカイユ・ドキュメンタリー映画祭
〈国内上映〉東京大学、アップリンク（東京)、福島映画祭など

定　　員	20 名（定員になり次第締め切り）
対　　象	東日本大震災により道内に避難・移住された方 避難された方々の経験を共有したい方ならどなたでも ※映画上映だけの参加はご遠慮ください。
参 加 費	無料
場　　所	旭川市ときわ市民ホール研修室　402 号室 〒070-0035 旭川市 5 条通 4 丁目　TEL 0166-23-5577
交通機関	JR 旭川駅から 徒歩約 15 分
駐 車 場	1 時間 100 円。1 時間以上、1 時間 100 円と 2 時間以降 30 分ごとに 50 円加算
申込方法	下記連絡先まで①～②をお伝えください ①参加者名 ②連絡先（携帯）
問 合 せ 申 込 先	NPO法人 北海道NPOサポートセンター 電　話　011-200-0973　　FAX　011-200-0974 メール　info@hnposc.net

北海道「2019 年度　道内避難者心のケア事業」
実施主体　北海道
受託団体　NPO法人北海道 NPOサポートセンター
協　　力　NPO法人旭川 NPOサポートセンター